

# 北海道伊達市有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告3

Overview on Archaeological Excavation of the Usumoshiri Site in  
Date City, Hokkaido, Vol.3

青野 友哉 AONO Tomoya  
永谷 幸人 NAGAYA Yukihito  
三谷 智広 MITANI Tomohiro

## 要 旨

筆者らは2019年から縄文晩期～続縄文前半期の遺跡である北海道南西部の有珠モシリ遺跡の発掘調査を実施している。本稿では2022年9月に実施した試掘調査と、貝塚・墓址の調査結果について報告する。試掘調査では、1985～1989年に行われた札幌医科大学の調査区を特定し、正確な位置を記録した。貝塚の調査では例数の少ない縄文晩期の貝層を検出し、ブロックサンプルの採取と<sup>14</sup>C年代測定の海域差(ΔR)の算出に必要な試料を得た。また、続縄文前半期の墓址からは多様な材質からなる玉類と石鏃が出土し、当該期の装身具・祭具・装身原理を考えるうえで重要な事例を提示した。

## 1. 本稿の目的

筆者らは2018年から科学研究費助成事業「狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究」【基盤研究(B)代表:青野 JSPS科研費18H00749】の一環として北海道伊達市有珠モシリ遺跡の発掘調査を実施した(青野・永谷2021、青野・永谷・三谷2022)。2020年9月には、縄文晩期後葉の人骨11体が出土した多数合

葬・複葬例を検出し、このうち8体の頭部には、鋭利な刃による傷跡や鈍器による陥没骨折治癒痕があるほか、石鏃の刺さった脛骨も存在した。

これら受傷人骨の存在は、日本列島規模での社会変容の存在を示す可能性があるため、2022年度からは「受傷人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社

会変容の解明」【基盤研究(B)代表:青野 JSPS科研費22H00741】として取り組み、有珠モシリ遺跡の発掘を継続することとした。

2022年度調査では、札幌医科大学による調査区(以下、札幌医大調査区)を確認するための試掘調査を実施し、範囲の特定と図面作成を行った。また、年代測定用と生業研究用の資料を得るために、縄文晩期及び続縄文期の貝層からサンプルの採取を試みた。この過程で、続縄文前半期の墓址を検出した。本稿では2022年に実施した有珠モシリ遺跡の発掘調査の概要について報告する。

## 2. 調査要項

遺 跡 名:有珠モシリ遺跡

登 載 番 号:J-04-61

所 在 地:北海道伊達市有珠町102

調 査 主 体:青野友哉(東北芸術工科大学)

発掘担当者:青野友哉(東北芸術工科大学)

調査参加者:永谷幸人(伊達市噴火湾文化研究所)・篠田謙一(科博)・近藤修(東大院理)・安達登(山梨大院医)・澤田純明(新潟医福大)・新美倫子(名古屋大博)・藤原秀樹・富田啓貴・渡辺双葉(北海道教育庁)・菅野修広(登別市教委)・三谷智広

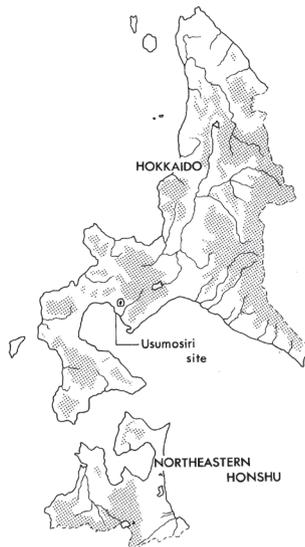


図1 有珠モシリ遺跡の位置

(パレオ・ラボ)・キャサリン・ハンプソン(東大D3)・高木蔵之介(D1)・逢坂暖(M2)・本間友理(3年)・鈴木大翔(東北芸工大M2)・松原奈々(4年)・川瀬理子・山田幸風・渡邊心乃美・丹郁弥・田代紘太(3年)・堀籠光太郎・澁谷歩理(2年)・小笠原暖・菅凜歩・安江花菜子・池田綾音・熊谷果音(1年)  
 整理作業参加者: 下嶋壮汰・中村悠河・前野日和・菊地恵・高橋望(2年)  
 調査面積: 180㎡(表土精査180㎡内、包含層・遺構調査10㎡)  
 調査期間: 2022年9月4日(日)~9月12日(月)  
 出土文化財: 土器・石器・骨角器・動物遺存体・人骨  
 出土数量: コンテナ3箱〔内寸679×367×122mm〕

### 3. 札医大調査区の特定

有珠モシリ遺跡は有珠湾の湾口に位置する約10,000㎡の小島中にあり、1985~1989年まで札幌医科大学が約100㎡の範囲を発掘している。筆者らは2019年に札医大調査区を再掘削し、調査途中であった8号墓を再検出した際に、既刊の『図録 有珠モシリ遺跡』(大島編2003)に記載された調査区と現在の地形測量図にずれが生じていることを確認した。そこで、2022年度は4箇所の試掘調査を行い、札医大調査区の東西南北4面の壁を検出することとした。

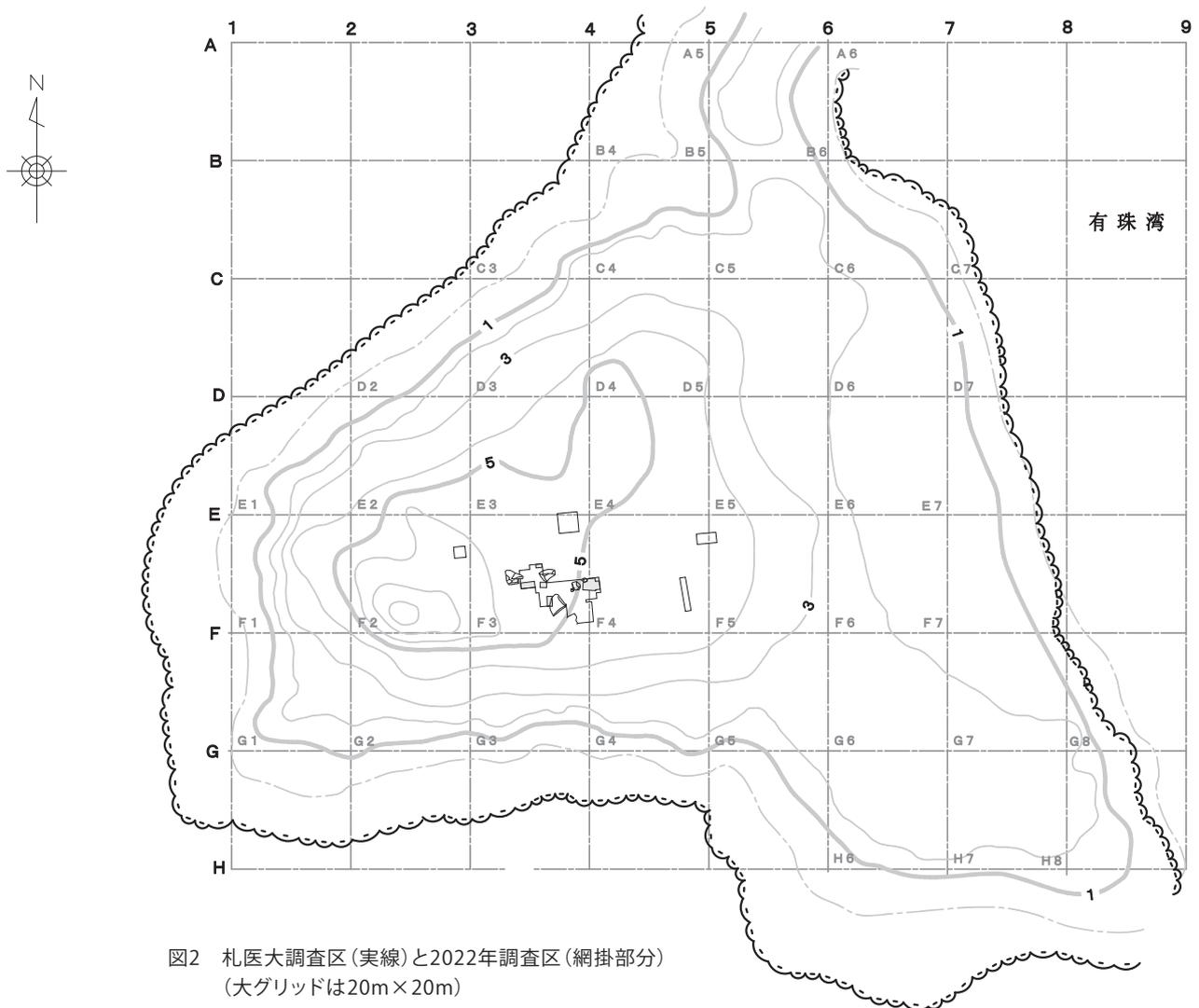


図2 札医大調査区(実線)と2022年調査区(網掛部分)  
 (大グリッドは20m×20m)

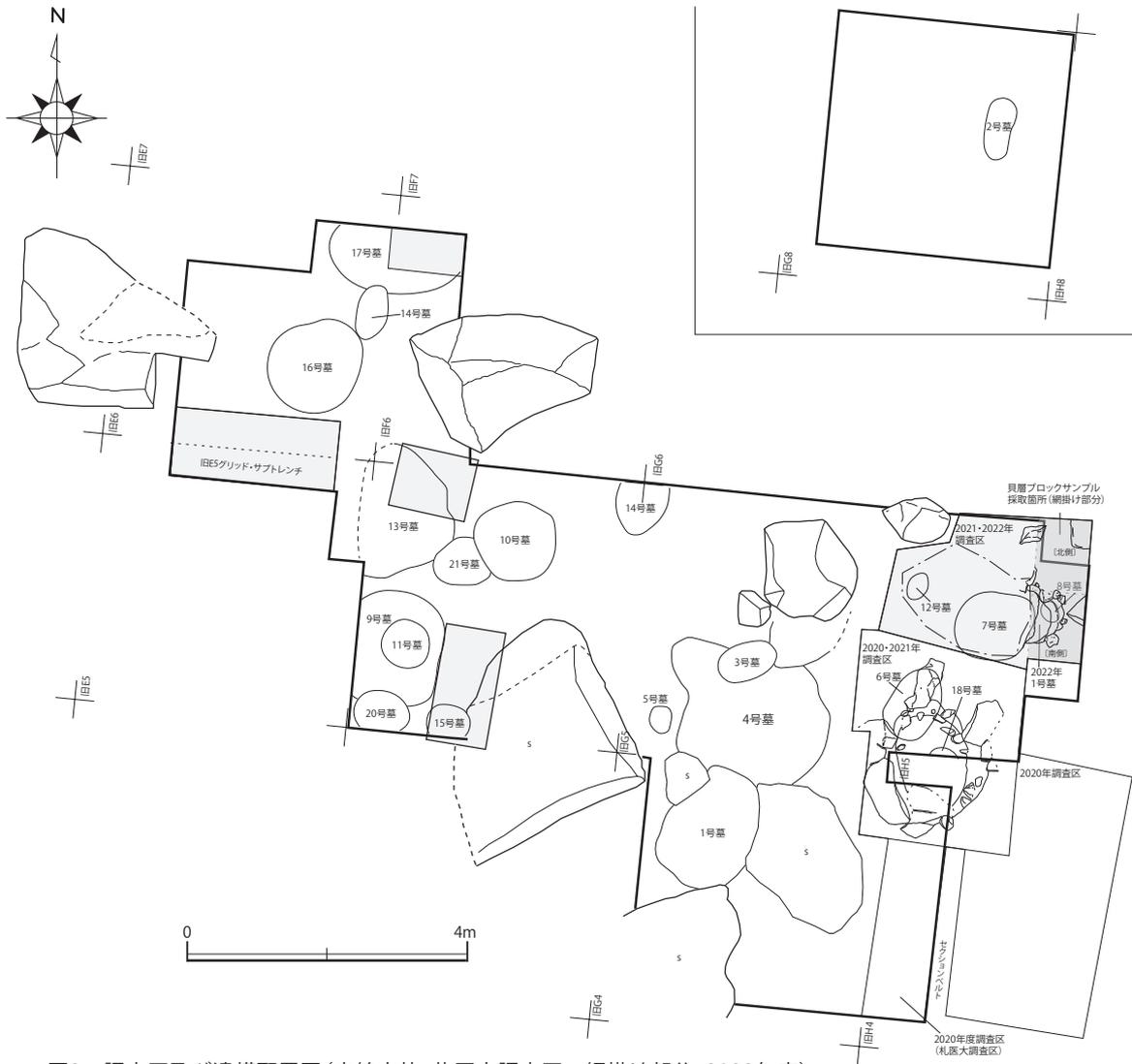


図3 調査区及び遺構配置図(実線太枠: 札医大調査区 網掛け部分: 2022年度)

その結果、図3に示した西側の4箇所の試掘坑で札医大調査区(旧E5・E6・F5・F6グリッド)の壁面を検出した。2020・2021年調査では東側の旧H4・H5グリッドの壁面を検出しており、これにより札医大調査区の主要な範囲を特定することができた。実際の札医大調査区は、図録掲載の箇所より東に約20mの位置であった。

なお、試掘調査で確定した旧E5グリッド北端にサブトレンチを設定して掘り下げたところ、散乱人骨と恵山式土器、後北C<sub>1</sub>式土器が出土した(図9)。

## 4. 2022年1号墓の調査

### (1)調査の経緯と経過

2021年から縄文晩期～統縄文期の生業研究を目的に7号

墓の東側(東西1m、南北2m)の貝層をブロックサンプルとして採取している。

2022年度は前年度の続きとして同範囲を掘り下げたところ、貝層中に半円形の墓坑プランを確認した。札医大調査区(7号墓)との境の土層断面を観察すると、白色砂の人為的堆積と先端が揃った統縄文前半期の石鏃が複数確認できたため、当該期の墓坑と判断した。調査方針は墓坑の調査後に下部の貝層を調査することとした。

この地点には札医大が調査した8号墓(幼児の頭骨のみ出土)が上部に存在したため、その続きである可能性も考えて調査した。また、札医大が残した調査区東面の土層断面図には「7号墓覆土」との記載があり、墓坑が調査区外に広がるとの認識であったことがわかった。

7号墓は南海産イモガイ製貝輪が出土した墓坑で、一次葬

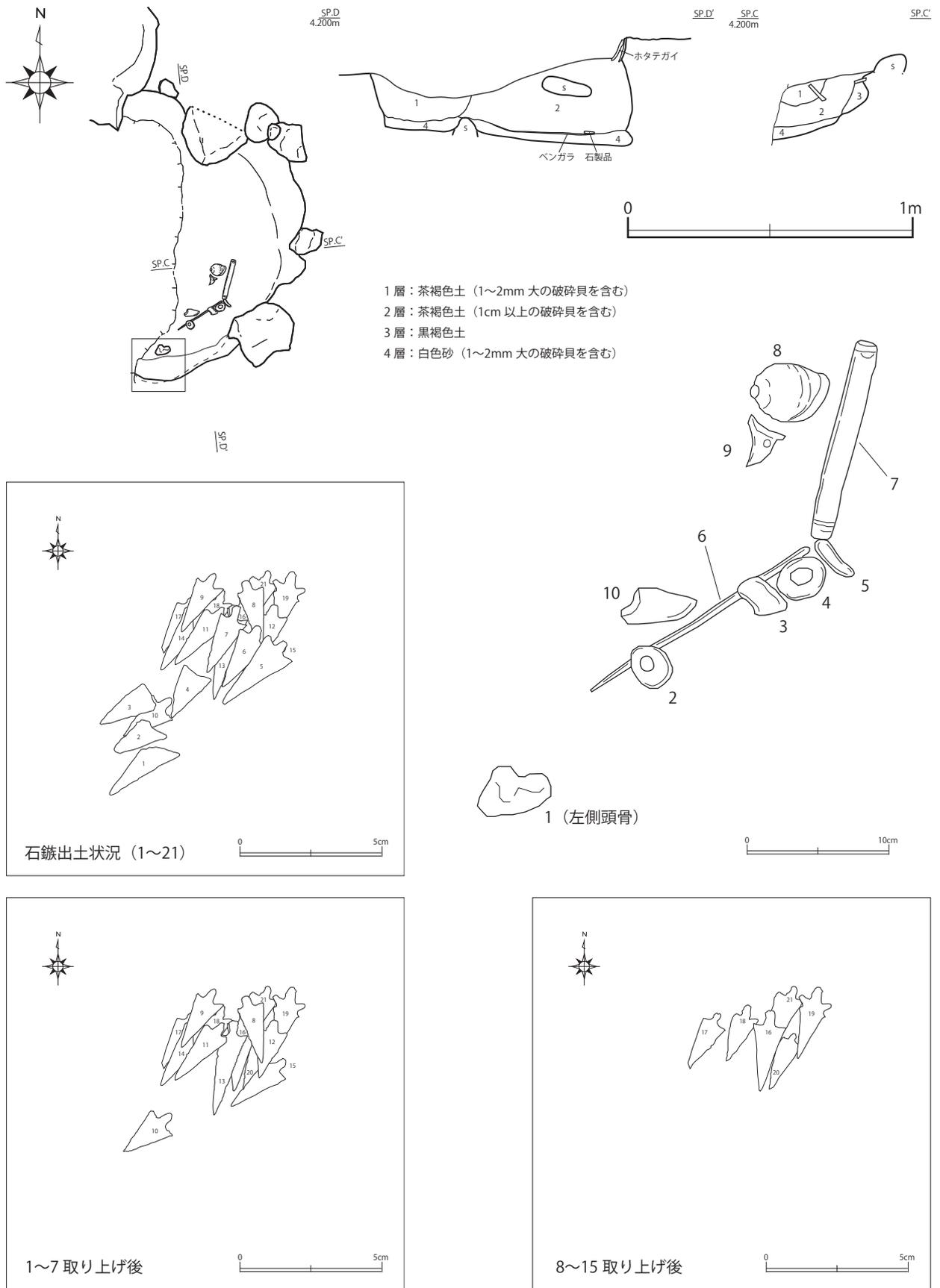


図4 2022年1号墓の平面図・断面図・出土状況図 (平面図中の正方形が石鏝出土範囲)

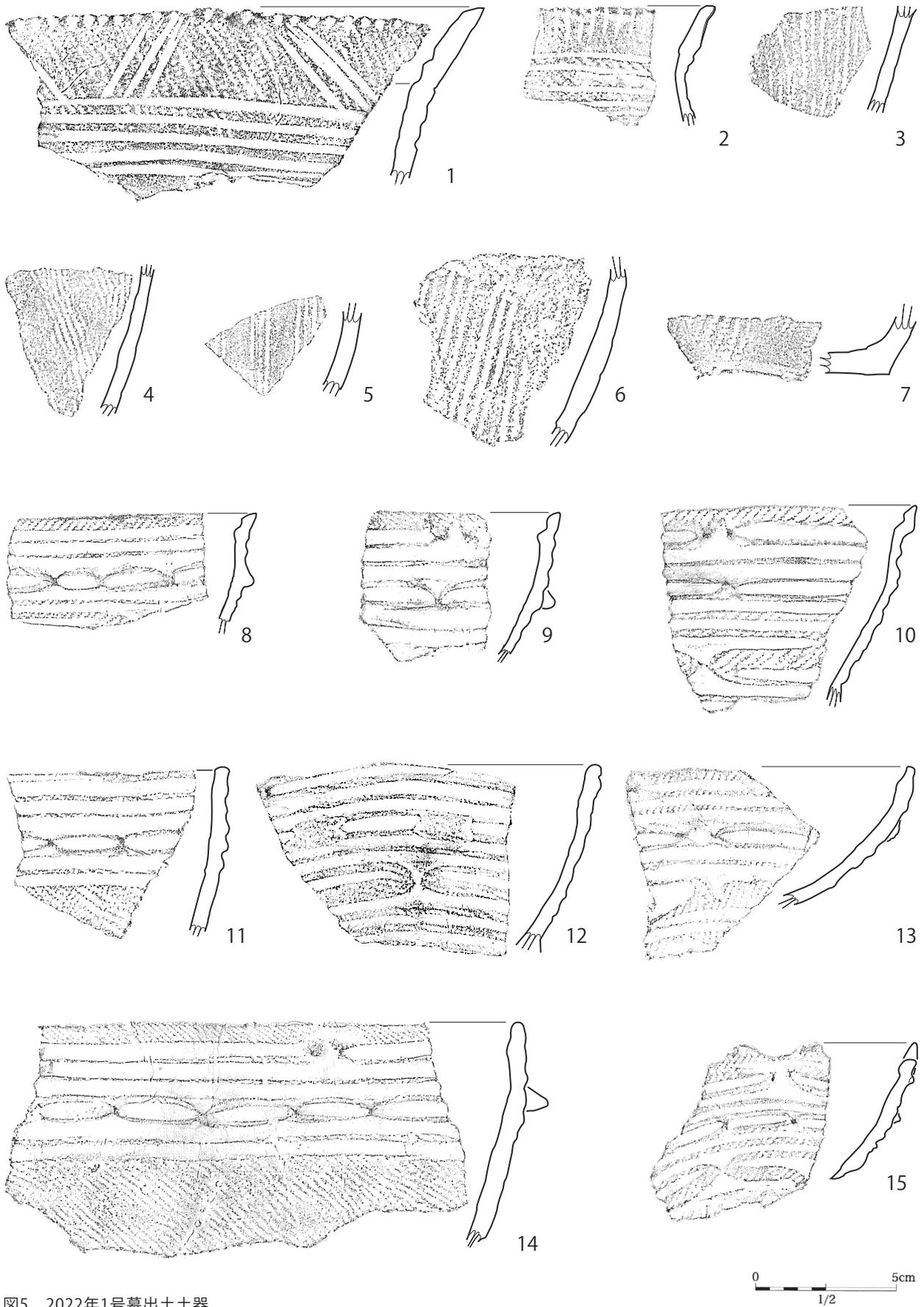


図5 2022年1号墓出土土器

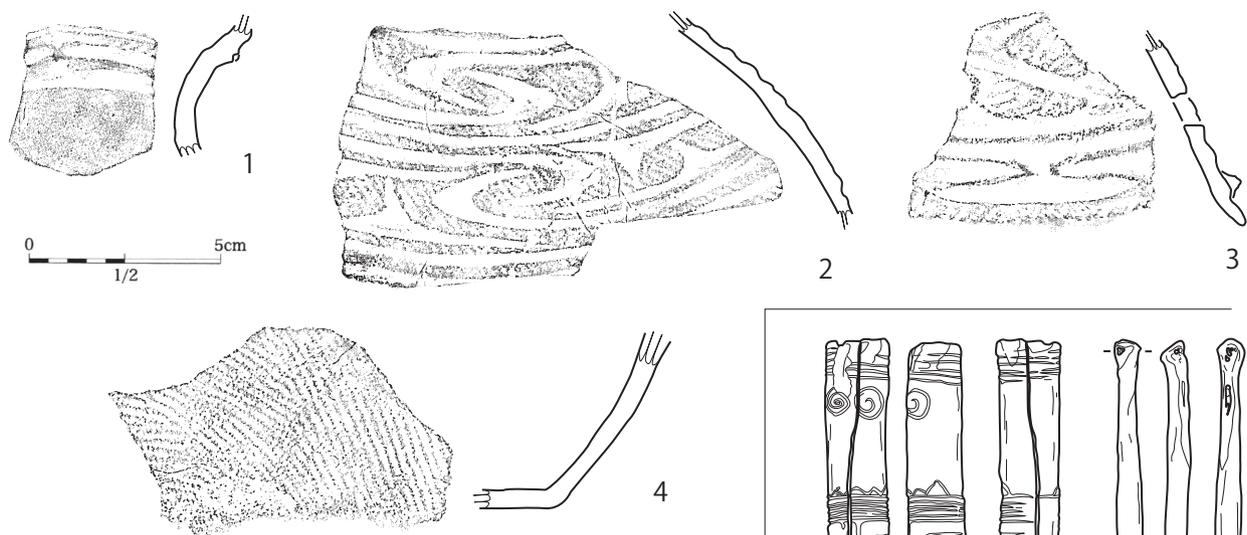


图6 2022年1号墓出土土器

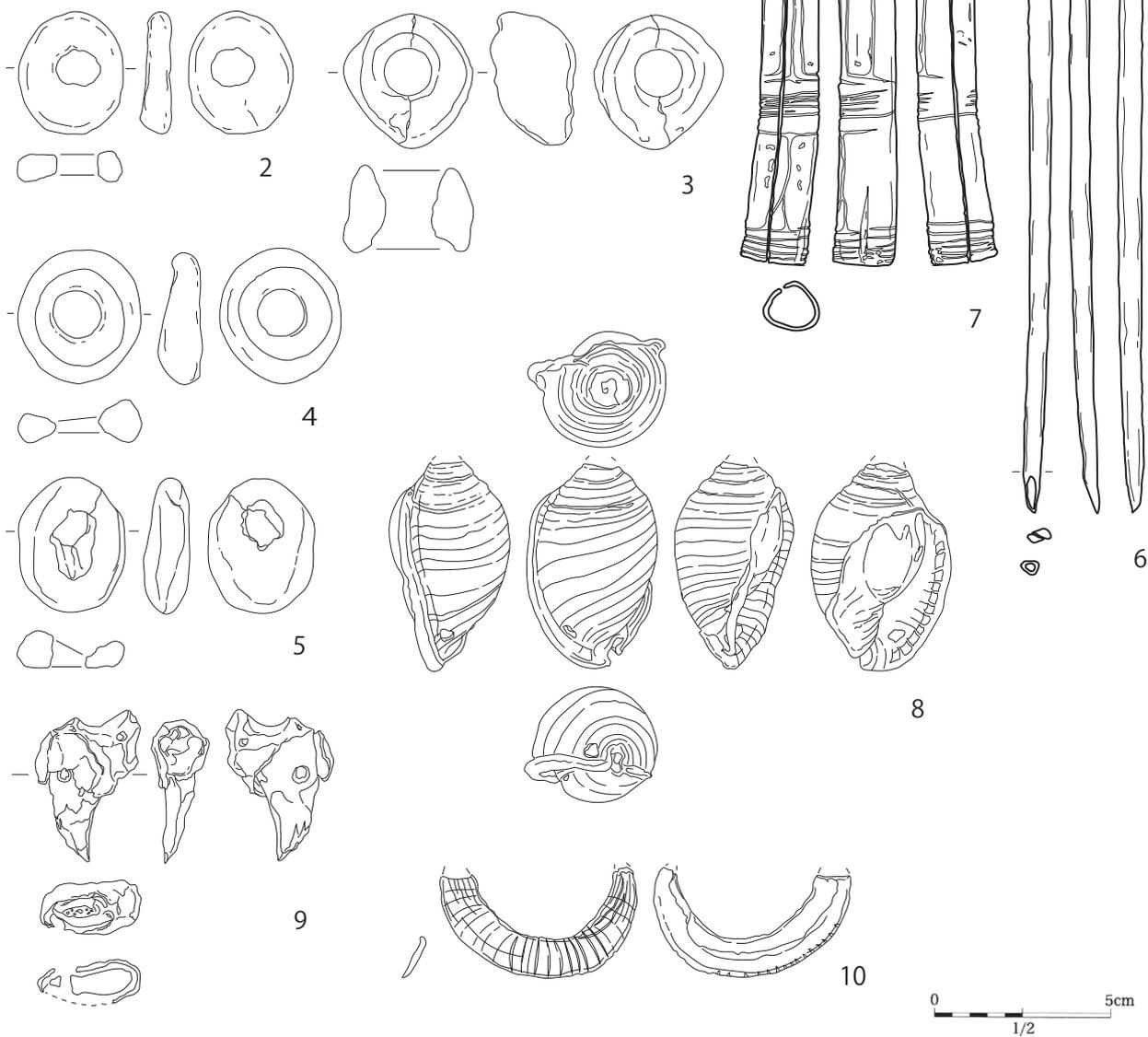


图7 2022年1号墓底部出土遺物

の女性人骨(7号2)の墓を掘り込み、男性人骨(7号1)が再埋葬(複葬)されたものである。新たに見つかった墓坑が7号墓と同一であるか、あるいは8号墓の続きであるかは現時点では判断できないため、「2022年1号墓」と仮称して報告する。

### (2)墓の構造(図4)

墓坑は西側が札医大調査時にすでに発掘されており、現存する平面形は半円形で、規模は南北1m、東西の残存部が0.45m、最大の深さは0.40mである。

墓坑の掘り込み面にはホタテガイが垂直に出土しており、墓坑壁の落ち込みを示している。墓坑底部付近には白色砂が約4cm堆積し、その上にベンガラと人骨片・石製玉類・骨角器等が出土した。白色砂の下からは先端を南西に向けて揃えた石鏃が21点出土している。

### (3)出土遺物と墓址の時期(図5、図6)

2022年1号墓の出土土器はすべてが覆土出土の土器片であり、墓坑底部への副葬は確認できなかった。

図5-1~7は帯縄文が特徴的な続縄文前半期の恵山式土器である。1の甕形土器は頸部の平行沈線文以下は無文帯となり、内面にも平行沈線文が施されるなど、アヨロ1類bの特徴を持つ。2は口縁部外面の刻みが細く、粗雑であることからアヨロ2b以降にあたり、出土土器の中では新しい部類に入る。

図5-8~15、図6-1~4は縄文晩期後葉の聖山式土器である。鉢形土器が多い中、18は台付土器の透かし模様を持つ脚部である。これらの縄文晩期の土器は墓坑の構築時に下部の貝層を掘削したために、覆土中に混入したものと考えられる。

墓坑覆土出土の土器及び、後述する墓坑底部出土の石鏃の形態(長身の有茎石鏃・二等辺三角形の無茎石鏃)も考慮すると、当該墓坑の時期は続縄文前半期といえる。

### (3)副葬品の出土状況と特徴(図4、図7、写真10)

図7は墓坑底部の白色砂上で出土した人骨片と遺物である。1は成人の左側頭骨で乳様突起が残存しているが、内側の錐体部を欠損している。2~5は泥岩・砂岩製の玉類で、雨垂れ石様の孔のある自然石と、人為的加工が施されたものがある。

6はアホウドリ科の橈骨の遠位端を斜めに切断して尖らせ、近位端の表裏面を削ぐことで直径1mmの孔を開けたも

のである。孔の直径に比して製品の最大幅は6mmと太い点と、近位端の凸形状から、縫い針とは考えにくい。また、近接して出土した骨製針入れには収まらない長さである。髪飾りである可能性も考えられるが、穿孔の位置が玉類(4・5)と針入れ(7)の一端と近接しており、紐を通すか、骨端部に紐を結んだ一連の製品である可能性が高い。

7は鳥類骨製の針入れで線刻による模様が施されている。裏面の線刻は当初から簡素であったか、摩耗により消失した可能性がある。

8はカズラガイの螺塔の先端を除去し、外唇部に直径5mmの孔を穿った貝製品である。一部には摩耗した痕跡がある。カズラガイは新潟以南・房総半島以南に生息する暖海性の貝である。類例は、伊達市北黄金貝塚で縄文前期中葉の貝層中から未加工の状態出土している。

9はクマの末節骨に孔を穿ったものである。末節骨は鉤状の部分と外側の薄い膜状の骨の間に約1mmの隙間があることから、本来は爪が存在した状態で墓坑に入れられたといえる。10は頁岩製のナイフである。

11は墓坑底部の白色砂の下の黒褐色土から出土した小型のベンケイガイ製品である。墓坑下部の貝層に伴う可能性もある。殻頂部側に剥離痕跡があるが、磨き加工はされていない。欠損しているため穿孔は確認できない。サイズは小さく腕輪以外の用途と考えられる。

玉類は出土状況から、2・3・4・6・5・7・8・9の順に連ねられたと考えられる。針入れが玉類として転用されていることや、アホウドリ科の骨製の玉類が存在することはこれまで知られていなかった。また、海産・陸産の動物や孔の開いた自然石など、素材が多様である点は続縄文期の玉類の中で異質である。この事例は、碧玉製管玉・琥珀製玉類・貝製平玉のような同種からなる製品とは用途が異なる可能性も考えられる。

図4には石鏃の出土状況を図示した。人為的に墓坑底部に敷かれた白色砂の下から21点の石鏃が先端を南西方向に揃えた状態で出土している。札医大調査区の再掘削時に複数の石鏃が壁面から脱落したことから、本来の点数はより多かったと思われる。出土状況からは矢柄に装着した状態での副葬と判断される。

## 5. 縄文晩期貝層の調査

2022年1号墓の完掘後に墓坑壁面を精査すると、魚骨のみ

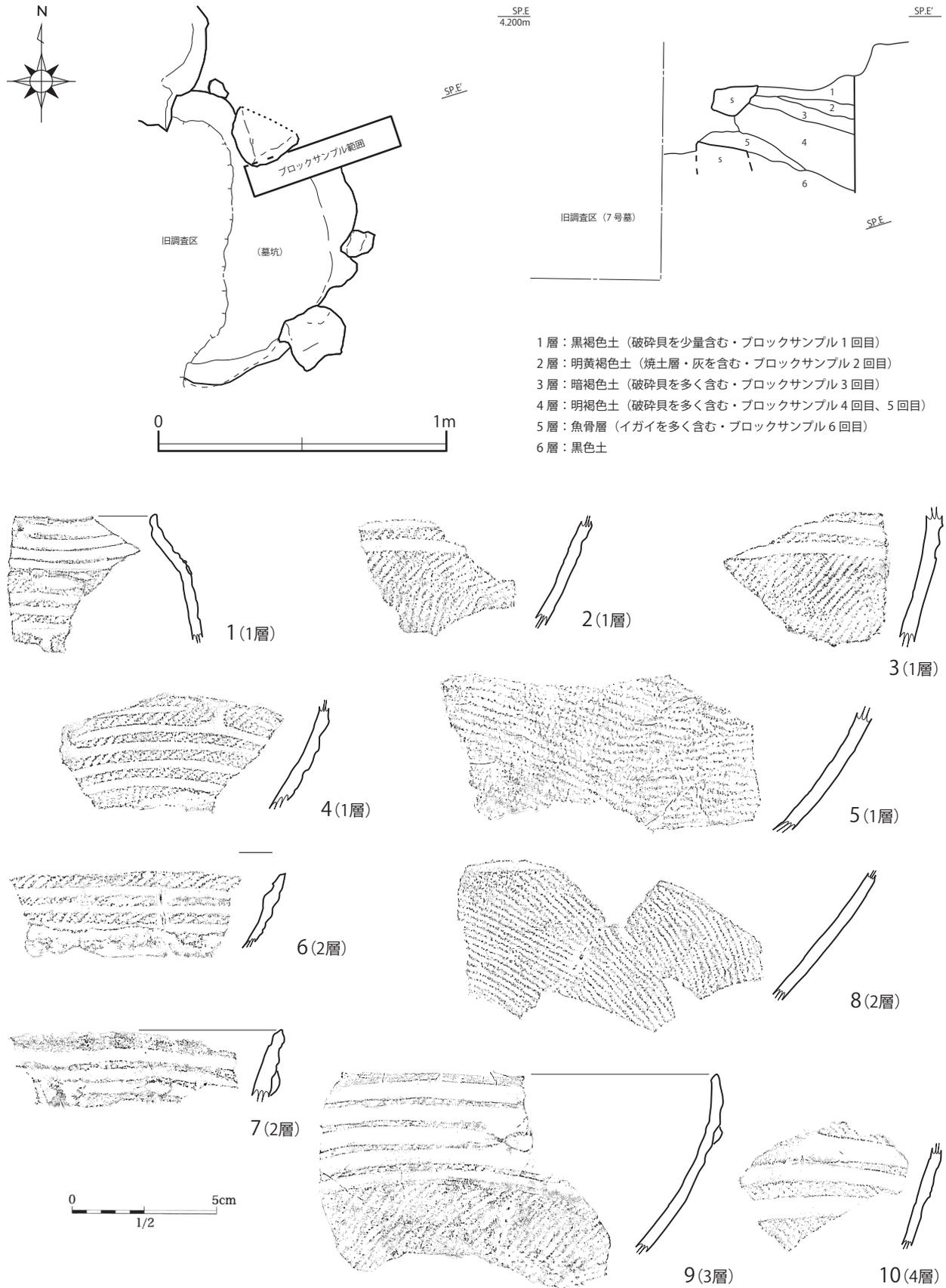


図8 晩期貝層ブロックサンプルの採取箇所・土層断面図および出土土器

が約3~5cmの厚さで堆積する層が認められた(図8)。筆者らは北黄金貝塚や若生貝塚の旧調査区の再発掘の経験から、一度攪乱された魚骨は数年で腐朽するとの知見を得ており、魚骨層の存在はプライマリーであることを示す基準としてきた。つまり、墓坑壁面に現れた魚骨層は縄文期の掘削を免れた貝層であることを示していた。

そこで、1号墓の北東壁部分に50cm×10cmの貝層ブロックサンプル採取箇所を設定した。サンプルは6回に分けて上位から採取した。貝層はアサリを主体としつつ、混入する土や焼土、貝の破碎の程度等で分層できる。

出土土器は聖山式土器であり、北海道において数少ない縄文晩期後葉の貝塚であることがわかった。図8-1は小型の壺形土器の口縁部である。頸部は浅い沈線が横走り、肩部がくの字に屈曲する。2~10は鉢形ないしは浅鉢型の土器で、

沈線は総じて浅く、9・10のように幅が広いものもある。4には工字文がみられる。

ブロックサンプルの各層には縄文土器の出土はなく、縄文晩期のプライマリーな貝層であることがわかった。

なお、ブロックサンプル5回目の4層下部からは、エゾシカの角が出土しており、アサリとともに年代測定の海域差を算出するための試料とすることができた。

## 6. サブトレンチの調査と遺構外出土遺物

札幌大調査区を再発掘する試掘調査のうち、最も西側のテストピット(2.5m×1m)では、旧E5グリッド西端部分(50cm×30cm)が有珠b火山灰の下面まで掘削され、目印のビニール袋を敷いて埋め戻されていた。この箇所が旧E5グ

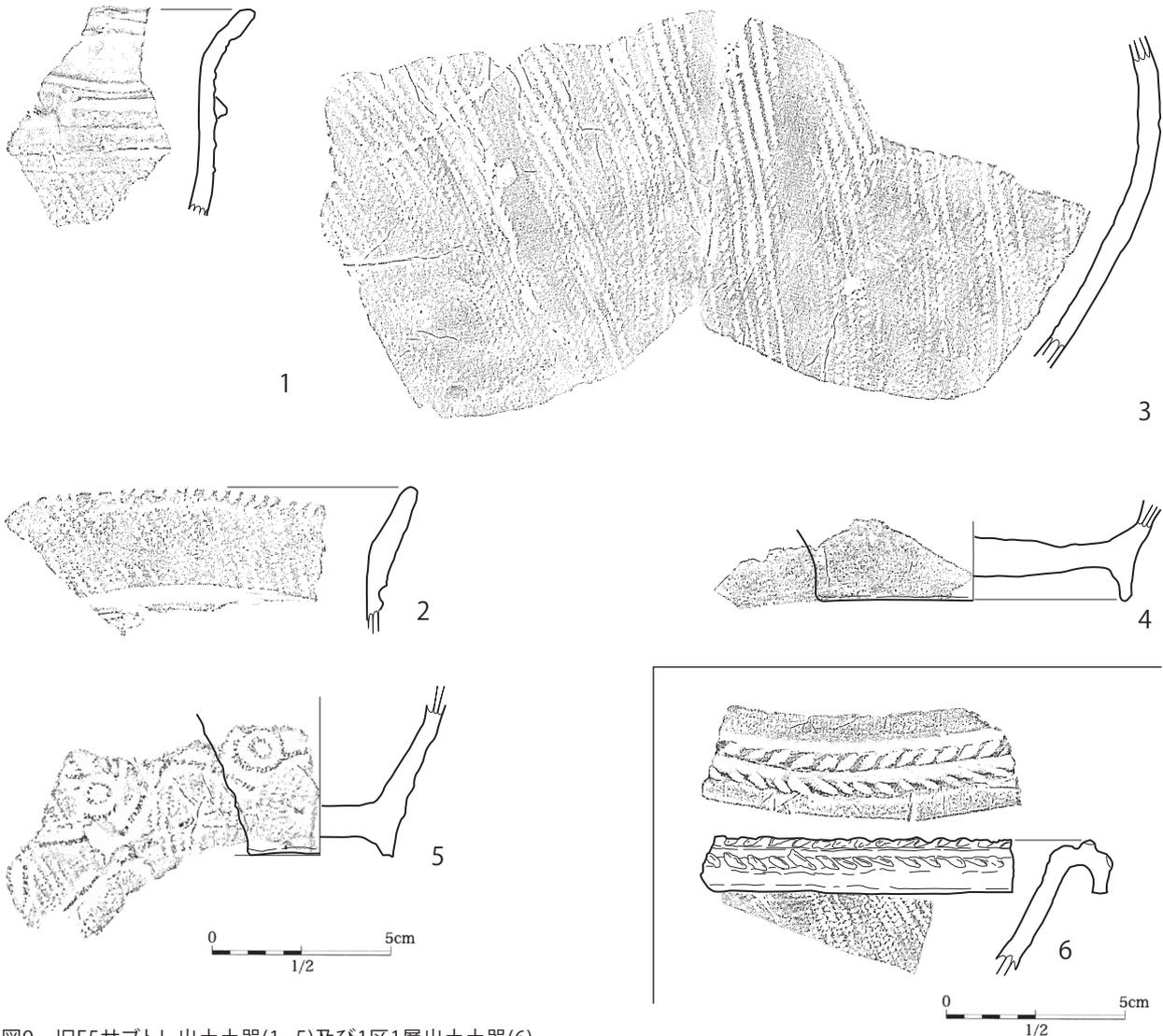


図9 旧E5サブトレ出土土器(1~5)及び1区1層出土土器(6)

リッド北端であることを確認し、東西2.5m、南北0.5mのサブトレンチを設定して調査した。

調査範囲は有珠b火山灰(1663年降下)が一面に堆積しており、下位の褐色土層からは状態の良い下顎骨や肩甲骨を含む散乱人骨と続縄文期の遺物が多数出土した。

サブトレンチ南壁面の土層観察では、有珠b火山灰下面が波打つ形状であり、散乱人骨が帯状に分布することと合わせて考えると、17世紀の畑跡が存在する可能性がある。

図9の1・2は甕型土器の口縁部である。3は帯縄文が縦走する壺形土器の胴部で、4は揚げ底の底部である。上記はいずれも続縄文前半期の恵山式土器である。

5は小型土器の胴部下半である。文様は細い隆起線が底部付近まで垂下しており、同心円文が施されている。後北C<sub>1</sub>式と判断した。

6(写真11-2)は2020年に1区1層(破碎貝層)から出土した土器の口縁部破片である。口縁部は断面がコの字状に折り返され、内湾することから、器種は壺形土器か高杯と思われる。口縁部上に両側を沈線で区画した隆帯が2本巡り、隆帯上を棒状工具による沈線文がハの字状に施されている。外面はRL縄文が縦走し、内面は横方向になでられ、丁寧に平滑化されている。胎土は密で焼成は良好である。縄文が縦走し、茶色及び黒色の色調である点から続縄文期の土器と考えられるが、特異な器形で類例を知らない。

写真11-1は2022年1号墓の東側のブロックサンプル南で出土したクマ彫刻の匙型製品の一部である。四肢を広げ、背面から描写した彫刻を持つ例は、札幌大調査時の骨角器にはないが、函館市恵山貝塚には類例がある。

## 7. 成果と課題

2022年の発掘調査では、札幌大調査区を確定でき、既報告における位置のずれを修正することができた。

また、2022年1号墓とした続縄文前半期の墓坑における玉類が、従来の単一素材からなる玉類とは様相を異にすることから、装身具・祭具といった用途の究明に資する材料を提供できた。

なお、この墓坑が札幌大調査時の8号墓あるいは7号墓と同一であるかの検討が課題である。7号墓の検討においては、再葬された男性人骨(7号1)の初葬地とも考えられるため、出土人骨の接合関係と核DNA分析による個体の判別が必要となる。

さらに、今回の調査では数少ない縄文晩期の貝塚を確認できたことも成果である。今後は採取するサンプル量を増やし、より詳細な内容の把握に努めたい。

調査・報告にあたり、下記の機関および個人より指導・助言を得た(敬称略)。

大西善幸(個人)、木村国夫(伊達アイヌ協会)、岩田廣美(いぶり噴火湾漁協)、中村賢太郎(パレオ・ラボ)、北海道教育庁、伊達市教育委員会

### 参考文献

- 青野友哉・永谷幸人, 2021.3:「有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告」『歴史遺産研究』第15号. 東北芸術工科大学. pp.59-68
- 青野友哉・永谷幸人・三谷智広, 2022.3:「有珠モシリ遺跡発掘調査概要報告2」『歴史遺産研究』第16号. 東北芸術工科大学. pp.11-22
- 青野友哉・永谷幸人・近藤修・澤田純明・三谷智広・菅野修広, 2022.5 「骨・歯の接合関係による多数合葬葬例の埋葬過程復元 - 北海道有珠モシリ遺跡の事例」日本考古学協会第88回総会研究発表要旨 p.85
- 青野友哉, 2022.6「恵山文化の骨角器の文様変遷について」『日本動物考古学会 第9回大会 プログラム・抄録集』p.21
- 大島直行, 2003:「Ⅲ. 有珠モシリ遺跡の概要」『図録 有珠モシリ遺跡』北海道伊達市教育委員会. pp.35-58
- Ayako, Shibutani., Tomoya, Aono., Yukihito, Nagaya., (2022.8.2). Starch granules from human teeth : New clues on the Epi-Jomon diet. *Frontiers in Ecology and Evolution*. 1-13. <https://doi.org/10.3389/fevo.2022.907666>
- Kana Fujimoto, Gento Fujii, Hideki Shojo, Hiroaki Nakanishi, Hideaki Kanzawa-Kiriyama, Masao Saitoh, Kunio Yoshizawa, Tomoya Aono, Tetsuya Horita, Aya Takada, Kazuyuki Saito, Koichiro Ueki, Noboru Adachi, (2022.8.22). Highly sensitive sex determination method using the exon 1 region of the a melogenin gene: *Legal Medicine*. 102136. <https://doi.org/10.3389/fevo.2022.907666>
- Tomoya Aono, Kazuhisa Yoshimura, Minoru Yoneda, Junmei Sawada, Haruka Yamaguchi, Tadayuki Masuyama 2022.7.8 「A STUDY OF HUMAN MIGRATION USING DENTAL FLUORINE ANALYSIS」『The Ninth World Archaeological Congress WAC-9 Abstract Book』p.302



写真1 試掘調査(西から撮影)



写真2 旧F6北東隅(南西から撮影)



写真3 旧E5(奥)・E6(手前)(北東から)



写真4 晩期貝層断面(南から撮影)



写真5 2022年1号墓検出時(西から撮影)



写真6 1号墓遺物出土状況(西から撮影)



写真7 1号墓石鏃出土状況(西から撮影)



写真8 調査終了時点(西から撮影)

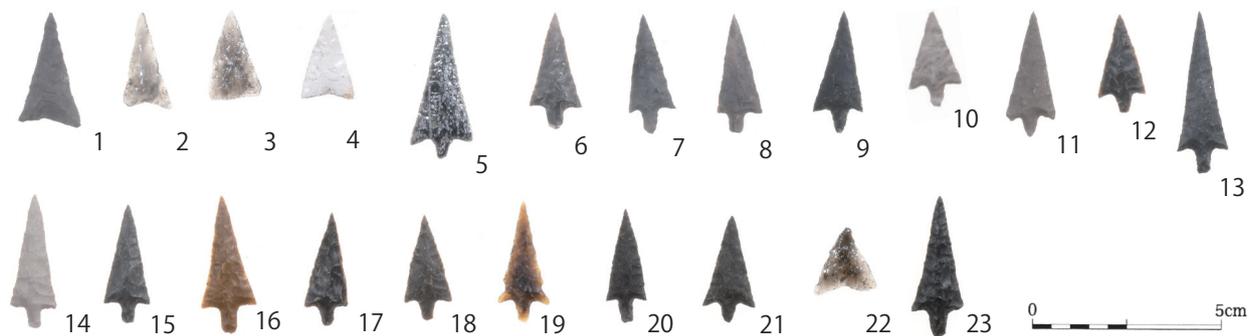


写真9 2022年1号墓出土石鏃(1~21:墓坑底面 22:清掃土 23:白色砂直上)

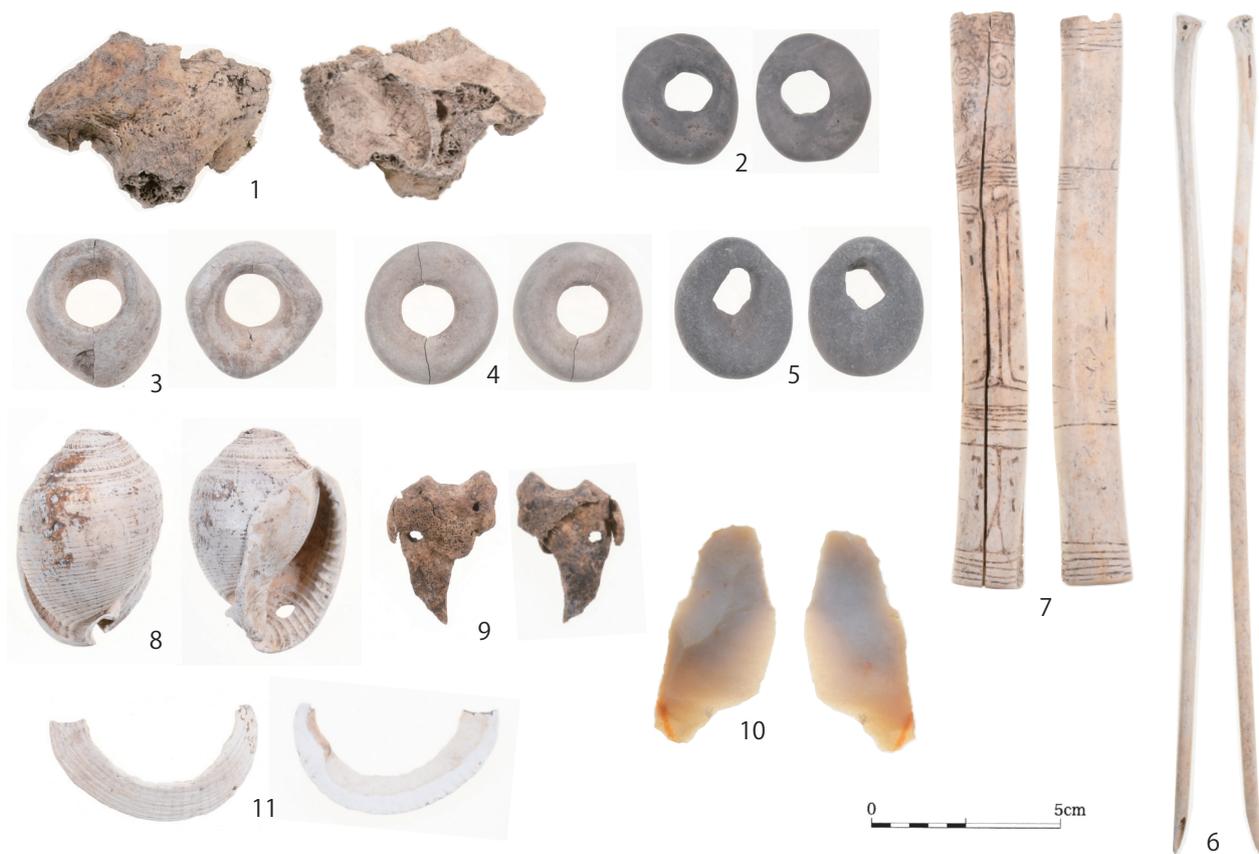


写真10 2022年1号墓出土人骨・遺物(1:人骨 2~10:白色砂上 11:墓坑底面)



写真11 遺構外出土遺物(1:ブロックサンプル南 2:2020年1区1層)